

**今年度の重点課題（学校アクションプラン）**

**令和2年度 富山南高等学校アクションプラン -1-**

重点項目	学習活動（教科指導全般の充実）		
重点課題	教科指導の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びに向けた授業の改善が求められるところから、指導内容や指導方法について各教科部会を中心に研修しているところである。思考力問題への対応、表現力の向上について、授業研究を活発化していく必要がある。</li> <li>学習指導研修会や互見授業を全職員により行い、資質向上を図るとともに、研修内容を充実させ、その成果を学習指導に活用できるよう努力しているところであるが、受験対策期である3年生2学期でのアンケートの実施率が低く、実態を十分に研究し指導に反映できていないのが現状である。</li> <li>週末や長期休業中に課している課題、自主的な学習を、生徒がいかに主体的にかつ具体的に計画を立て、取り組むかを指導し実践させるため、学習に興味を持たせることが肝要である。</li> </ul>		
達成目標	①互見授業の年間実施回数 2回以上	②授業アンケートの実施回数 2回以上	
方 策	<p><b>互見授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間4週程度(1学期2週、2学期2週)の実施期間を設け、積極的に実施するよう促す。</li> <li>1～2学期に関しては実施期間でなくとも実施できることとし、直近の実施期間後の教科会議で意見交換を行う。</li> <li>公開授業など、他校で行われたものに関しては教科内にフィードバックする。</li> <p><b>授業アンケート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月および12月を基本のアンケート期間とし、実施を促す。</li> <li>ただし、単元の境など実施時期については柔軟に運用できるものとし、実施を奨励する。</li> </ul> </ul>		
達 成 度	互見授業の実施率は、申告上は53%である。しかし学校訪問等があつたため、60%は超えたものと考える。	授業アンケートの達成率は68.8%である。100%を超えて実施した教科は8教科中3教科であった。また、未実施者が21名に上った。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度前半は新型コロナ感染症の影響もあり、授業時数が限られていたため、互見授業、授業アンケートとともに実施期間を設けることができなかった。</li> <li>12月から1月を後期の実施期間として実施を依頼したものの、絶対的な授業時間の確保が必要であり、さらに豪雪による休校や、入試対応のため実際の実施は困難であった。</li> <li>多くの教員がコロナ禍でICTを利用することにチャレンジすることができた年であり、教員が相互に支え合う様子が見られた。授業改革については一定の成果があつたのではないか。</li> <li>様々な機会を捉え、目標達成に向けて授業実践のさらなる向上につなげていけるようこれからも声かけを行っていきたい。</li> </ul>		
評 価	D 実施が不十分である。	D 実施が不十分である。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、学校休業期間等があった。そのため、厳しい評価になっているが、互見授業・授業アンケートまたICT活用の取り組みはできているので自信を持ってほしい。</li> <li>来年度も新型コロナウイルス関係は心配があるので、リモート授業等、ICTの有効な活用方法を検討していくべきだと考える。</li> </ul>		
次年度へ向けての課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストが始まり、思考力問題への対応、表現力の向上を各教科、学年等で研究し、定期考査に取り入れるなど工夫を行っている。これらについての授業研究をさらに活性化させていきたい。</li> <li>コロナ禍で休校を余儀なくされたが、教育用クラウドサービスなどを利用し災害に負けない工夫を教員の互助により構築していきたい。</li> <li>授業アンケートは2極化してきている。実施時期を大幅に見直したり、実施期間を考え直し、授業にフィードバックできるよう実施を勧めていきたい。</li> </ul>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

**令和2年度 富山南高等学校アクションプラン - 2 -**

<b>重点項目</b>	学習活動（国際理解教育）			
<b>重点課題</b>	英語コミュニケーション能力の育成と向上および国際コースの活動の充実			
<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を軸とし、さらに様々な活動（スピーチコンテスト、ボキャブラリーコンテスト等）を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指している。</li> <li>「国際コミュニケーション」を学校設定科目として設定し、自然な英語の聞きとり、英語でのプレゼンテーション、意見交換ができる英語力の育成に努めている。</li> <li>特色ある国際コースを主とした活動である「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」がより有意義なものになるよう、事前指導の充実に務めている。適した講師の招聘には苦慮している。</li> <li>GTECは令和元年度2年生が7月受験時に755点以上77%で目標を達成した。</li> <li>令和元年度国際コース卒業生で英語検定2級以上を取得した生徒の割合は75%（内1名は準1級を取得）で目標を達成した。</li> </ul>			
<b>達成目標</b>	①コミュニケーション能力をレベルアップした生徒の割合 (GTEC 4技能、英検)	②「国際理解セミナー」、「国際理解のための講演会」への（希望者も含む）参加生徒の満足度の割合		
	GTEC 690点以上70% (1年) 755点以上70% (2年) 790点以上70% (3年)	アンケート調査による「たいへん満足」「ほぼ満足」の割合が併せて90%以上	英検 (国際コース) 卒業時の英語検定2級以上取得者5割以上	
<b>方 策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際コースに限らず、全クラスで英語力の向上を目指す授業を行う。</li> <li>英語に関する行事を工夫して行い、生徒の英語に関する興味・関心を高める。</li> <li>定期考查や実力テストなどで4技能を測るテストを実施する。</li> <li>英語検定の受検を推奨する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国際理解」、「英語活動」、「コミュニケーション能力の向上」等に関する講師を県内外問わず招聘する。</li> <li>「国際理解セミナー」及び「国際理解のための講演会」が、より有意義なものになるよう事前指導を十分に行う。また事後に振り返り（感想）をさせることで、今後の学校生活や進路選択に役立つよう図る。</li> <li>満足度に関するアンケートを行い、より充実した行事になるよう工夫する。</li> </ul>		
<b>達成度</b>	GTEC 7月実施 1年 690点以上 39.7% 2年 755点以上 78.8% 達成 3年 790点以上 83.0% 達成	7月 「国際理解のための講演会」 たいへん満足 2年 76% 3年 83% ほぼ満足 2年 24% 3年 17%	GTEC 12月の結果はまだ出ていない。 英検 3年国際コース2級以上取得者 22名 59.5% 達成 (内準1級取得者3名)	12月 「国際理解セミナー」 各学年3講座平均 たいへん満足 1年 85% 2年 53% ほぼ満足 1年 15% 2年 44% 講演会、セミナーとも達成
<b>具体的な取組状況</b>	GTEC <ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年は7月と12月、3年は7月に実施</li> <li>各学年とも授業を通して4技能をバランス良く伸ばすよう努めている。</li> </ul> 英検 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は第1回～3回の1次試験を本校で実施することになり、なるべく多くの生徒に受験するよう呼びかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義だけでなく、生徒たちが実際に活動できる講座を企画した。</li> <li>各行事の後でアンケートを実施した。</li> <li>講演内容を授業内容と関連させた。</li> </ul>		
<b>評 価</b>	B	2, 3年は目標を達成した。	A	目標数値は達成した。講義によつては難易度が高いものもあった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のなか国際コースの行事を工夫して行われたことがすばらしい。</li> <li>英検受験生徒に対する個別指導が充実している。今後も続けてほしい。</li> </ul>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義の中でのグループワークやペアワークなどの言語活動が増えているので、生徒の英語力に合った講座を実施していく必要がある。</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和2年度 富山南高等学校アクションプラン -3-

重点項目	学校生活（生徒指導の徹底）					
重点課題	全職員での生徒指導					
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣が身に付いていない生徒が一部見られる。特に遅刻・服装・マナー等の定着にやや欠ける。</li> <li>・昨年度は交通事故が12件発生。特に自転車による事故が多く、重大事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーに関する苦情も寄せられている。</li> <li>・ネットパトロールに指摘を受けた件数が4件報告された。個人情報の保護に対する意識を含み、SNS等の危険性に対する認識が薄いと思われる。</li> </ul>					
達成目標	①交通事故年間件数		②教職員による巡回パトロールの年間回数	③ネットパトロールに指摘を受ける件数		
	全体で5件以内 (2・3年生は各1件)		50回以上	3件以内		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻・服装・マナー等に関する指導は、教育活動全体の中で全教員が一丸となつて行う。特に、月初め3日間の登校指導や、生活委員、生徒会が協力して挨拶運動を行う中で、生徒1人ひとりが主体的に自覚と責任を持った行動ができるように指導をしたい。</li> <li>・交通安全教室等やHR、生徒会を通して交通安全に関する意識の高揚を図る。また、毎月1回、サイクル安全リーダーと共に交通安全街頭指導を行う。</li> <li>・本校周辺での不審者被害はほとんど起こらなかつたが、引き続き、巡回パトロールを実施し、地域の防犯担当者及び警察との連携を図る。</li> <li>・携帯・スマホの使い方や危険について、生徒により作成されたネットルールを遵守させるほか、ネットトラブル防止教室や集会などの機会を捉え指導を行う。</li> <li>・達成目標に挙げた交通事故、ネットパトロールについては、生徒の安全に関わる事案であり、当然、発生件数0件を目標としている。</li> </ul>					
達成度	事故件数10件。昨年と比べると2件減ったものの、目標には大きく届かなかつた。		コロナウイルス感染症の影響で、パトロール回数はかなり少なかつた。幸い、学校周辺での不審者情報もあまり報告されていなかつた。	指摘を受けた件数3件。リスクの認識が甘く、不用意な投稿が指摘された。		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に比べ事故件数は減っているものの、4件は当事者で話し合ってその場を離れてしまつてるので、必ず保護者・警察などへの連絡するように指導した。</li> <li>・サイクル安全リーダーによる街頭指導を通し、交通安全を呼びかける生徒の活動を行つてきたが、数回しかできなかつた。</li> <li>・不審者対策としてのパトロールは、計画通り実施できなかつた。</li> <li>・交通安全教室・ネットトラブル防止教室が実施できなかつた。また、今年度の登校指導については、生徒を参加させなかつた。</li> </ul>					
評 価	C	交通安全に対する意識が低い。今後も継続的に指導することが必要である。	C	同じ車に乗つてのパトロールは、今後検討が必要。しかし、不審者への抑制になることなので必要である。	B	SNSに関する危険性を十分理解させ、上手に利用できる力を身につけさせていきたい。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、授業や学校行事でICTを活用する場面が増える。スマートフォンやPCの正しい使い方の指導をお願いしたい。</li> <li>・自転車事故が多い気がする。日頃、南高校の生徒を見ていてマナーが悪いとは感じないが、事故には十分気をつけてほしい。</li> </ul>					
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式の中での生徒指導のあり方を探る</li> <li>・生徒特別指導内規について検討（18歳成人の対応・携帯等の利用違反者に対する指導について）</li> <li>・アンケート等の様式</li> </ul>					

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかつた D:達成しなかつた)

## 令和2年度 富山南高等学校アクションプラン -4-

重点項目	学校生活（保健指導）			
重点課題	防災への備えと疾病予防に対する自己管理の徹底			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、全国各地で大規模で甚大な被害を及ぼす地震や水害などの自然災害が増加しており、今後も東南海地震、県内の断層直下型地震、集中豪雨による大規模水害などが懸念されている。地震の少ない富山県に暮らす本校生徒の防災に対する意識は、個人差が大きいのではないかと予想される。</li> <li>定期健康診断によると、各種治療カードを発行している枚数は、令和元年度では224枚である。対象生徒に対し治療を促しているが、回収された治療カードは30枚で13%でしかない。そこで、本年度も各種治療カードの回収率を高めるように働きかけ、早めに治療して、健康な生活をおくることができるようする。</li> </ul>			
達成目標	①防災に関するアンケートで、自宅周辺の避難場所を知っている、災害用伝言ダイヤルの使い方を知っていると答えた生徒の割合。 それぞれ50%以上	②各種治療カードの回収率 25%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練などの機会を通して防災の重要性を訴え、災害時への備えの必要性を理解させる。</li> <li>防災に関するアンケートを行い、本校生徒の防災意識を把握する。</li> <li>南苑祭で全校生徒に防災に関する情報を伝える活動を行う。</li> <li>各種治療カードの啓発活動として、年間2回運動期間を設ける。</li> <li>治療カード提出を呼びかけるポスターを掲示する。</li> <li>保護者会の機会に、治療カード未提出者の保護者に治療に行かせるよう促す。</li> </ul>			
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に関するアンケート（9月10日から行われた南苑WEEKで保健委員会が発表）を実施した結果、自宅周辺の避難場所を知っていると答えた割合は、68%であったが、災害用伝言ダイヤルの使い方を知っていると答えた生徒は、6%しかいなかった。</li> <li>8月末に1年生に耳鼻科検診、9月17日に一斉検診を実施した。歯科（う歯のみ）126枚中16枚、耳鼻科40枚中2枚、眼科（視力は別）9枚中1枚、内科（運動器含む）23枚中5枚の治療カードを回収した。全体で198枚発行し、24枚（12%）回収した。</li> </ul>			
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月の避難訓練で、防災の重要性を訴え、災害時への備えの必要性を訴えた。</li> <li>防災に関するアンケートを実施し、南苑祭で結果を展示発表した。また、学校保健委員会でも発表した。</li> <li>学期末保護者会の機会に、治療カード未提出者の保護者に治療に行かせるよう促した。</li> <li>コロナ禍のため、通院をためらう雰囲気もあり、強く勧めにくかった。</li> </ul>			
評 価	C	・目標を達成できなかった。	C	・目標を達成できなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>先日、報道に自殺者の増加について取り上げられていたが、その内女子高校生の数が2倍に増加したこと驚いている。表面的にはわからなくても、新型コロナウイルスの影響で思うように周囲と関われない状況の中、精神的に揺らいでいる生徒もいるのではないか。ぜひ先生方には生徒の声をじっくり時間をかけて聞くという気持ちを根底に持ち、生徒と関わってほしい。</li> </ul>			
次年度へ向けての課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に関する意識を高めるため、避難訓練、南苑祭などの機会を捉えて啓発し続けていく。</li> <li>各種集会、保護者会などで、コロナ禍でも症状が悪化しないよう、治療・通院を勧める。</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

**令和2年度 富山南高等学校アクションプラン - 5 -**

<b>重点項目</b>	進路支援		
<b>重点課題</b>	高い志を持ち進路目標の達成に取り組む生徒の育成		
<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学に進学したいと考えている生徒の割合は1・2年次で9割以上、3年次で8割以上になるが、具体的な進路目標をもった生徒の割合が低い。</li> <li>・学部学科を2年次1学期までに決定できる生徒の割合が少ない。</li> <li>・低学年から3年間を見通した学習・進路指導を成長段階に応じて、学年と協力し、情報を共有しながら実施し、生徒のそれぞれの意欲を持続させられるよう工夫している。</li> </ul>		
<b>達成目標</b>	①高校生のための学びの基礎診断を利用した学習到達度(GTZ)を達成した生徒の割合 1月模試において総合B1以上の生徒の割合が 1年生は6割以上、2年生は5割以上 3年生は11月模試において総合B1以上の生徒の割合が5割以上	②年間の面接回数 5回以上	
<b>方 策</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 進路指導計画に基づく各学年の方針に従い、生徒との個人面接を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、具体的な目標を個々に設定させる。キャリア・パスポートを利用して、自己理解に努めさせる。</li> <li>2 学力検討会及び学年会を通して、教科と学年が連携して生徒の学習意欲を喚起し、学力の定着が図れるように努める。</li> <li>3 ST前の朝の時間を活用して、短時間に集中し、かつ継続して学習させる。</li> <li>4 普段の個別試験対策に加え、共通テストから個別試験の学習へよりスムーズに移行できるように努める。</li> </ol>		
<b>達成度</b>	11月模試B1以上の割合 3年 34% 2年 32% 1年 38% 1, 2年生の1月模試の結果はまだ出でていない	12月までの面接回数 3回～5回 12月の面接は7限までの授業であったため、あまり進まなかった。	
<b>具体的な取組状況</b>	<p>本年度はコロナウイルス感染症のために授業の開始が遅れ、3年生(受験生)はもとより1, 2年生も目標の設定や学力面での不安が大きい年になっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 5月下旬の学校再開後すぐに個人面接を開始した。2学期の面接週間までに数回ずつ面接を行い、生徒理解に努めている。3年生は模擬試験の直後にも面接を実施している。面接を通して学習習慣の定着もはかりたい。</li> <li>2 3年生は進学検討会を実施し、現在の学力把握を行っている。1, 2年生は学年会において7・11月の模試分析を行った。教科毎に課題はまだまだたくさんある。</li> <li>3 朝8時30分の開始時間に、集中して各教科の課題に取り組んでいる。一部取り組み方が甘い生徒や時間に遅れる生徒がおり、徹底できないことが問題点である。</li> <li>4 入試制度が変わった節目の年となり、例年の個別試験対策に加えて、共通テスト対策を入念に準備して行っている。</li> </ol>		
<b>評 価</b>	C	達成目標を満たさなかつたため	B 5月の学校再開後、休校中の生徒の不安取り除く努力や生徒理解に努めることができた。
<b>学校関係者の意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の進路探訪分科会では、分科会での記録を冊子にして生徒に配布している。その冊子を有効に使い、生徒の職業観を広げて欲しい。</li> <li>・生徒の職業観・進路意識を向上させるため、多くの講師を呼び講演していただきたいがその人選が素晴らしいと感じた。講演内容によつては、生徒と講師の年齢が離れすぎると、生徒が聞きたいと思う内容とそれが生じる。今後も講師の人選に気を遣つて欲しい。</li> </ul>		
<b>次年度へ向けての課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・パスポートを利用し、学習活動や特別活動の目標を具体化させ、その振り返りを行つた。総合的な探究の時間をうまく活用して、生徒の主体性を育てるこの取り組みを、もっと強化していきたい。</li> <li>・年間を通して面接をタイムリーに実施し、学習意欲の喚起やつまずき、志望校の決定などの生徒支援をさらに充実していきたい。</li> <li>・学力向上のために各学年の学力検討会を充実させ、学年の意思統一をはかりたい。</li> <li>・現3学年は共通テスト初年度を意識して、「思考力・表現力・判断力を伸ばす指導」に取り組んできた。また、3年後を見通して学習活動や課外活動等の主体性のある活動にも取り組んできた。この取り組みを継続していきたい。</li> </ul>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

**令和2年度 富山南高等学校アクションプラン -6-**

重点項目	特別活動（HR活動、学校行事の充実）				
重点課題	生徒による主体的な企画・立案・運営				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度のアクションプランにより、学年及びクラスでテーマを決めて討論したり、問題解決に向け意見交換したりするような活動が企画され、実施された。さらに継続することで定着を図りたい。</li> <li>・多くの生徒は、体育大会、南苑祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。さらに主体的な取り組みとなるよう、企画、準備段階から積極的に取り組ませたい。</li> </ul>				
達成目標	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">①ホームルーム活動において、討論会など各学期1回(年間3回以上)計画、実施する。</td> <td style="width: 50%;">②体育大会、南苑祭の満足度 それぞれ80%以上 企画、準備段階での取り組み姿勢 「積極的な参画」 80%以上</td> </tr> </table>			①ホームルーム活動において、討論会など各学期1回(年間3回以上)計画、実施する。	②体育大会、南苑祭の満足度 それぞれ80%以上 企画、準備段階での取り組み姿勢 「積極的な参画」 80%以上
①ホームルーム活動において、討論会など各学期1回(年間3回以上)計画、実施する。	②体育大会、南苑祭の満足度 それぞれ80%以上 企画、準備段階での取り組み姿勢 「積極的な参画」 80%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期始めのホームルーム計画立案の際に具体例を提示し、ホームルーム委員やホーム長が中心となり、課題に対して一人ひとりが自分なりの意見や意思を持った上で、合意形成に向けた話し合い活動に臨むようにする。</li> <li>・実施状況等アンケート調査し、次回の計画等に生かす。</li> <li>・体育大会は生徒会執行部や体育委員、南苑祭は生徒会執行部や南苑祭実行委員を中心となって企画している。より多くの生徒が、様々な場面で参画できる機会を工夫することで、自主的、主体的な運営につなげる。</li> <li>・満足度アンケートで、意見を集約し、改善に生かす。</li> </ul>				
到 達 度	話し合い活動実施状況 1学期 全学年、全クラスで実施 2学期 全学年、全クラスで実施 3学期 1, 2学年全クラスで実施 ※3学年はHRの時間が設定されていないため	体育大会満足度 <input type="radio"/> 競技に全力を出せたか 1年生93%、2年生94%、3年生92% <input type="radio"/> 充実していた 1年生87%、2年生89%、3年生90% <input type="radio"/> 準備等積極的な参画 1年生47%、2年生60%、3年生56% <input type="radio"/> 係の仕事がなかった 1年生47%、2年生38%、3年生41% 南苑WEEK満足度 <input type="radio"/> 取り組んだことに全力を出せたか 1年生88%、2年生84%、3年生81% <input type="radio"/> 充実していた 1年生76%、2年生70%、3年生77%			
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの学校で行事が中止、変更となる中、本校の体育大会は6月から9月に移し、規模は大幅に縮小したものの、何とか実施することができた。また9月に行ってきた南苑祭は南苑WEEKとし、各文化部や芸術選択者の発表を中心実施することができた。生徒たちの輝ける場、成長の場を何とか確保できたものと考えている。反省点としては、準備期間中の気象条件や感染防止対策等、多くの配慮事項や検討事項が重複したことや、同時期に大きな行事を行ったことにより、混乱や連絡の不備、不徹底などが見受けられた。</li> <li>・話し合い活動については、各学年、各クラスでテーマを決めて実施していただいた。2学年では、自分の進路先が新型コロナウイルスに対してどのような調査や研究、活動等が行われているかを調べ、発表や話し合いをすることで、お互いの考えを共有したり、深めたりした。1学年では総合で行うディベート大会に向け、準備や練習等に充てるなど、各学年で特色ある活動が行われた。</li> </ul>				
評 価	A	各学年、クラスで特色ある活動を実施した。	B 満足度は概ね達成できた。「積極的な参画」で達成目標を満たせなかった。		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、体育大会・南苑WEEKを工夫して行われた。学校行事を生徒の成長の場としてとらえチャレンジしている姿が素晴らしいと感じた。</li> <li>・今年度はコロナ禍の関係で、何事も手探りの状態であった。来年度もこの状態は続くと思うが、生徒にとっては一度きりの高校生活である。「できないこともあったが、充実した3年間だった。」と生徒が感じられるようにして欲しい。</li> </ul>				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を他者に伝えることや、他者の意見を受け入れ共有したり、議論を通じて深めたりすることは一朝一夕では身につかない。今後も機会を設け、高めていく必要がある。</li> <li>・行事についてはできるだけ実施したいと考えているが、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、対応していくたい。</li> </ul>				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

**令和2年度 富山南高等学校アクションプラン -7-**

<b>重点項目</b>	特別活動（図書指導の充実）			
<b>重点課題</b>	読書習慣の定着と図書館及び図書資料の活用促進			
<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書量の多い生徒もいる反面、読書習慣のない生徒がいる。昨年度1人あたりの貸出冊数は3.5冊であった。(H30年度 3.5冊 H29年度 3.0冊)</li> <li>・図書館への来館人数は1日平均55人であった。</li> <li>・本を主体的に読み、考え、表現する力が、十分についているとはいえない。</li> <li>・小論文や調べ学習の機会が増え、生徒自身が情報を選択しまとめることが必要になっている。しかし、生徒の図書検索力は十分とは言えない。</li> <li>・昨年度司書の先生がレファレンス（図書資料や情報を求めている生徒たちに支援する活動）をした数は67回だった。</li> </ul>			
<b>達成目標</b>	① レファレンスの数 一年間に60回以上	②一人あたりの貸出冊数 3冊以上		
<b>方 策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年での図書館利用指導を充実させる。</li> <li>・HRや「総合的な学習の時間」での図書館利用の企画を提案する。</li> <li>・生徒図書委員会の活動を通して、読書の楽しさを体験できる場の設定を工夫する。</li> <li>・「としょだより」(生徒図書委員発行)と「Library」(図書部発行)を配布し、新刊図書案内や生徒の読後感等を掲載することによって、生徒の読書欲を喚起する。</li> <li>・領域や系統を決めて一つのテーマや内容に沿った関連図書を随時紹介したり、常設コーナーを設ける。</li> <li>・図書館資料を利用した授業や課題を通して、生徒が図書を検索できるように段階的に指導する。</li> <li>・公立図書館との連携や教科との連携を図り、図書館資料を充実させる。</li> </ul>			
<b>達 成 度</b>	4月～2月までのレファレンス の数は、64件だった。	5月下旬～2月までの一人あたりの貸出冊数は、2.0冊だった。		
<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生がようやく登校できるようになった5月下旬からクラスを2班に分けて図書館利用指導を行った。密を避けるため、例年行っている貸出は行わなかった。指導時にはオリエンテーション資料を使い、図書館の概要を紹介した。</li> <li>・生徒図書委員発行の「としょだより」(7回)と図書部発行の「Library」(5回)を配布し、生徒の読書欲を喚起している。</li> <li>・夏の読書課題に向けて、ブックトークと読書感想文の書き方について「読書指導」を行った。新型コロナ対策として、1クラス25分程度で指導した。1・2年生にはブックリスト「読んでみようこの1冊！」を各クラスに配布した。</li> <li>・国語科や学年との連携で、夏休みに1・2学年全員を対象に「校内読書感想文コンクール」を実施した。</li> <li>・生徒からのレファレンスの多い職種・進路指導資料について担当教科の意見を参考に、スピーディーな図書の配置を行い、生徒が利用しやすい環境を整えた。</li> <li>・大学入試問題の出典本や学部別に小論文関連の本のコーナーを設けたり、新聞記事を分野ごとにまとめた「切り抜き速報」をそろえたりするなど、小論文対策に活用できるようにした。</li> <li>・南苑WEEKでは、芥川賞を受賞した高山羽根子（富山市出身）氏の作品を筆頭に、富山県にゆかりのある作品の紹介と展示貸出しを行った。また、英語の蔵書コーナーの設置と貸出しを行い、英語に関心のある生徒への読書欲を喚起した。</li> <li>・図書館を利用した授業では担当者と連絡を密にし、不足の資料は県立図書館からも借り、生徒が利用できるよう展示了。</li> <li>・本校図書館にない本に対しては、県立図書館の巡回サービスを利用し、図書の貸出しを希望する生徒や教職員に貸出を行っている。</li> <li>・保護者会の日に、保護者にも図書館を開放し、本の貸し出しを行った。</li> <li>・1月、1・2学年統一HR「読書会」を実施した。2年生は課題図書を『コロナ後の世界』一冊とし、1年生はビブリオバトル形式で行った。実施後に1・2年生の先生方に次年度の読書会に向けてアンケートを行った。</li> </ul>			
<b>評価</b>	A	コロナ対策で、図書館を調べ学習等で活用できない時期があつたが、なんとか目標を達成した。	D	5月下旬まで貸し出しができず、一人あたりの貸出冊数は、1学年1.9冊、2学年2.7冊、3学年1.8冊で、どの学年も目標を下回った。
<b>学校関係者の意見</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館活用促進の対策として、教育用クラウドサービスを活用してはどうか。教育用クラウドサービスに図書館のクラスを作り、おすすめの本や読書感想文を載せることで生徒の読書意識を刺激してはどうか。</li> </ul>			
<b>次年度へ向けての課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、コロナ対策として、いくつかの図書館行事を行うことができなかつたが、ビブリオバトルなど、楽しみながら本に興味が持てるような行事を多く取り入れて本を読む機会ができるだけ増やしていきたい。</li> </ul>			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)